

【論文名】 Shade avoidance and light foraging of a clonal woody species, *Pachysandra terminalis*, *Plants* 2021, 10(4) (Published: 20 April 2021)

【論文 URL】 <https://doi.org/10.3390/plants10040809>

## 植物だって状況が悪ければ逃げる！

低木フッキソウは地下茎を伸ばして日陰の悪い環境から移動する。

### 【解説】

植物は、芽生えた場所から逃げず、与えられた環境に立ち向かって一生懸命に生きていると考えている人も多いのですが、実際は、植物も種によっては様々な手段で、例えば地下茎を伸ばして、より環境の良い別の場所に移動することがあります。このような現象は「shade avoidance」（日陰の回避）や「light foraging」（光資源の探索）と呼ばれます。この現象は、これまで草本植物（草のなかま）などで報告がありましたが、木本植物（木のなかま）での報告はありませんでした。森林の樹林下に生育する低木などは、耐陰性（暗い環境でも耐えて生存する性質）を持つことが知られています。これらの低木は日陰に耐えるだけでなく、回避も行うのでしょうか。

帯広市内の森林（帯広の森、帯広農業高校保全林）に自生する常緑低木フッキソウに関する卒業研究から、フッキソウは暗い環境では明るい環境と比べて花も多く咲かせず、地下茎をより細く長く伸ばし、親株からより遠く地下茎の先に新しい株（ラメット）を配置していました。これらの結果は、フッキソウは光環境に応じて地下茎の形態を変化させ、暗すぎて不利な状況では日陰の回避や光資源の探索を行うことを示しています。

（注）フッキソウ（ツゲ科）は樹高の低い木本植物に分類されます。

2021年4月30日作成 小山耕平

### 【著者】

岩部梨沙（帯広畜産大学・環境生態学ユニット4年生（2021年3月小山研卒業生）

小山耕平（帯広畜産大学・助教）

駒村莉子（帯広畜産大学・環境生態学ユニット4年生（2021年3月小山研卒業生）